



地方産業都市の聲

戦時労働問題の真相

協働會報部 溜 島 武 雄

約十日間の工場見學から得た感想と、地方人士が労働政策の發信に當つて政府の要請を述べて見よう。

一 労働力の不足は豫

何人も産物生産がこれほど發展しようと思つた筈はない。即ち苦戦が起つた頃か少しそれをしめなければならぬと決心したものの、生産關係にこれだけの激變を要することは知らなかつたのである。或は化學工業あたりでは事變前の二倍乃至三倍の労働者が立ちどころに必要とされ、一般機械工業に於ける労働者の需要は到底お話にならぬ急増である。

二 採用標準の引下げとその影響

ては到底不可能なものである。労働者の出征が労働力の不足を來した大きな原因であることは否めないが、これは軍需生産の擴大に比較すれば未だその程度は軽いものである。我々は労働力の不足と謂へば動員に因るものと思つてゐるが、現場に行つて見ると認識を新しなくてはならないのである。折返し七月、八月は暑熱の爲工場職業者が少なくなり、農村に於ける同様の労働力不足と相俟つてまされり深刻な労働力の抽底に悩まされてゐる。

三 労働時間の延長

労働力の不足が労働時間の延長となることは或程度已むを得ないことではあるが、これを度を超せば却つて生産能率を減退することになる。事變の眞最中に於ける飛行機場の如きは殆んど無限の労働力を要するが、労働者の徹底的な協力を必要とするは勿論であるが、之も時間があまりに長過ぎれば却つて効果は期待し難いのである。職地に於ける目覚ましき同僚の活躍振りを以て、労働者を激発させることは容易であるが、即を生ませようとして鶏を殺す結果に終らぬ様、注意しなければならぬ。大抵の軍需工業では事變前から残業を含めて賃働十一時間以上つてゐた様であるから、これ以上延長することは、恒久的戦時對策としては、かばいからぬものと思はれる。一時的手段としては、

四 労働力不足と交替制度

生産力の擴充を徹底せしめ、而も残業を最少限に抑へよる爲に交替制度の採用が暗示されてゐるが、今日の如く労働力の不足が甚だしい時には、どの程度までか實現性があるか疑問である。熟練作業が機械化されるに従つて漸次熟練工又は女子の代位に依つて、交替制度も考へられぬことはない。又一部には前述の三交替制度を二交替制度に依つて労働不足を補ひ、又勤続工に於ける賃働八時間半二交替制度を延長することによつて、過剰労働を轉換せしめるとの説もあるが、年少婦女子の時間延長も極めて困難なことに謂はなければならぬ。

五 労働強化と保衛衛生

労働力の不足が、採用標準の低下となり、労働時間の延長を來すことは前述の如くであるが、これが爲に體格の低下となり、負傷率と罹病率、延いては缺勤率の増大となる。

六 職工の争奪

これは関東の例であるが、機械工場で熟練工の募集を新聞廣告に依つてすると五千名の希望者が押かけ、結局試験の結果、二百名程度の合格者があつたのであるが、斯様なことは今日の如き國家全體として生産力を擴充しようとする時には好ましくないことである。僅か二百人の職工を採用せんが爲に五千人の職工を動搖させることは國家として非常な損失である。

七 軍需工業の繁忙と非軍需工業の萎微

以上の如く軍需工業に於ける競争の激化の反面に於て、非軍需工業に於ける閑散は到底言前並に甚しいものがある。日露戦争當時に於てオカム事件を以て有名であつた西陣織物業は、またもやその端緒を示してゐる如くである。直接西陣織物業に従事してゐる職人が二萬五千人、間接的職人を合算すると十萬人、その家業を含めると約二十萬人の生活が脅かされてゐる。

八 女工の軍需工業への進出

労働力の不足は當然に女工の進出を必要とする。機械工業に於て、一部の作業行程に於て女工を雇用することは却つて好結果を來すのである。どの程度に女工が進出するかに就ては未だ適確なる資料に接し得ないが、愛知縣職業係あたりではこの調査を既に

協

労働警察部の能力に依つて或程度の防止はできるが、未だ全面的防止までにはゆかない。職工争奪防止の應急對策として、各工場に於て次の如き方法を講ずることに依つて、或程度の効果を收め得るが、要は事業主相互の自覺に待つより外には方法はないのである。

西陣に於ける失業者は今のところ約二千五百人程度と謂はれてゐるが、大部分は半失業状態となつてゐるやうである。最も困つたことは、彼等は機械工業の職働に困難で、舞藝工務守治の火藥庫に希望したものが、身體検査で全部不合格となつてゐる。尤も従業員の半数は女子であるから女子の職働は必ずしも困難ではないのである。

進めである如くである。機械作業に適しない西陣の男工、彈丸のケースを作つたり、馬具を作つたりする様な軍需工場は當て嵌まるのである。老若男女の労働力を適當に配分して、最悪の場合に備へるべき用意は今日から忘れてはならぬのである。

工場職人に於ける應召者の待遇は、今となつては少し高すぎたのではなからぬと云ふ譯に於て聞かれる。官廳即陸海軍作業及半官半民の工場では定額賃賃の中から軍需給與を差引いて支給するが、民間の大工場では全額支給のことも多少あつて、大抵名の知れた工場では八割、少くとも六割以上となつてゐる。尤も獨身者は二三割程度のところも多い。

労働警察中に炭坑が加はらぬのはまだよいとして、炭坑の労働者は軍需工業に逃げてゆく一方、従來炭坑に來てゐた労働者は全部軍需工業の方で働かされてしまふのである。これが爲に特に擴張を要する採炭が徐々に減少しつゝある状態である。

協

ホ、同地の成年を主として採用すること。
ハ、寄宿舎を設けること。
ニ、採用の際は同意契約書を作る。

五割が支那向商品であつたとすると軍需材料である爲に斯業の經營は徹底的に困難なる状態にあり、堺地方、名古屋地方兩地で四、五千の失業者があるものと見られてゐる。併しながら同業の労働者は轉業が容易である爲にその意味の不便は少ないのである。

工場職人に於ける應召者の待遇は、今となつては少し高すぎたのではなからぬと云ふ譯に於て聞かれる。官廳即陸海軍作業及半官半民の工場では定額賃賃の中から軍需給與を差引いて支給するが、民間の大工場では全額支給のことも多少あつて、大抵名の知れた工場では八割、少くとも六割以上となつてゐる。尤も獨身者は二三割程度のところも多い。

労働力の不足が、採用標準の低下となり、労働時間の延長を來すことは前述の如くであるが、これが爲に體格の低下となり、負傷率と罹病率、延いては缺勤率の増大となる。

労働警察中に炭坑が加はらぬのはまだよいとして、炭坑の労働者は軍需工業に逃げてゆく一方、従來炭坑に來てゐた労働者は全部軍需工業の方で働かされてしまふのである。これが爲に特に擴張を要する採炭が徐々に減少しつゝある状態である。

協

ハ、寄宿舎を設けること。
ニ、採用の際に同意契約書を作る。

五割が支那向商品であつたとすると軍需材料である爲に斯業の經營は徹底的に困難なる状態にあり、堺地方、名古屋地方兩地で四、五千の失業者があるものと見られてゐる。併しながら同業の労働者は轉業が容易である爲にその意味の不便は少ないのである。

工場職人に於ける應召者の待遇は、今となつては少し高すぎたのではなからぬと云ふ譯に於て聞かれる。官廳即陸海軍作業及半官半民の工場では定額賃賃の中から軍需給與を差引いて支給するが、民間の大工場では全額支給のことも多少あつて、大抵名の知れた工場では八割、少くとも六割以上となつてゐる。尤も獨身者は二三割程度のところも多い。

労働力の不足が、採用標準の低下となり、労働時間の延長を來すことは前述の如くであるが、これが爲に體格の低下となり、負傷率と罹病率、延いては缺勤率の増大となる。

労働警察中に炭坑が加はらぬのはまだよいとして、炭坑の労働者は軍需工業に逃げてゆく一方、従來炭坑に來てゐた労働者は全部軍需工業の方で働かされてしまふのである。これが爲に特に擴張を要する採炭が徐々に減少しつゝある状態である。

協

ハ、寄宿舎を設けること。
ニ、採用の際に同意契約書を作る。

五割が支那向商品であつたとすると軍需材料である爲に斯業の經營は徹底的に困難なる状態にあり、堺地方、名古屋地方兩地で四、五千の失業者があるものと見られてゐる。併しながら同業の労働者は轉業が容易である爲にその意味の不便は少ないのである。

工場職人に於ける應召者の待遇は、今となつては少し高すぎたのではなからぬと云ふ譯に於て聞かれる。官廳即陸海軍作業及半官半民の工場では定額賃賃の中から軍需給與を差引いて支給するが、民間の大工場では全額支給のことも多少あつて、大抵名の知れた工場では八割、少くとも六割以上となつてゐる。尤も獨身者は二三割程度のところも多い。

労働力の不足が、採用標準の低下となり、労働時間の延長を來すことは前述の如くであるが、これが爲に體格の低下となり、負傷率と罹病率、延いては缺勤率の増大となる。

労働警察中に炭坑が加はらぬのはまだよいとして、炭坑の労働者は軍需工業に逃げてゆく一方、従來炭坑に來てゐた労働者は全部軍需工業の方で働かされてしまふのである。これが爲に特に擴張を要する採炭が徐々に減少しつゝある状態である。

協

ハ、寄宿舎を設けること。
ニ、採用の際に同意契約書を作る。

五割が支那向商品であつたとすると軍需材料である爲に斯業の經營は徹底的に困難なる状態にあり、堺地方、名古屋地方兩地で四、五千の失業者があるものと見られてゐる。併しながら同業の労働者は轉業が容易である爲にその意味の不便は少ないのである。

工場職人に於ける應召者の待遇は、今となつては少し高すぎたのではなからぬと云ふ譯に於て聞かれる。官廳即陸海軍作業及半官半民の工場では定額賃賃の中から軍需給與を差引いて支給するが、民間の大工場では全額支給のことも多少あつて、大抵名の知れた工場では八割、少くとも六割以上となつてゐる。尤も獨身者は二三割程度のところも多い。

労働力の不足が、採用標準の低下となり、労働時間の延長を來すことは前述の如くであるが、これが爲に體格の低下となり、負傷率と罹病率、延いては缺勤率の増大となる。

労働警察中に炭坑が加はらぬのはまだよいとして、炭坑の労働者は軍需工業に逃げてゆく一方、従來炭坑に來てゐた労働者は全部軍需工業の方で働かされてしまふのである。これが爲に特に擴張を要する採炭が徐々に減少しつゝある状態である。



「社會政策時報」
「産業福利」
「協働會報」